

2025年度中3卒業式校長挨拶（2026. 3. 17）

中学校3年生第103期生の皆さん、中学校卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまにも、この中学校卒業という節目に際し、心から祝意を表します。

武蔵においては、コロナ前までは中学の卒業式はなく、高校生と合同で行う卒業式が武蔵の卒業式でした。しかし、コロナ禍では、会場収容の人数制限の関係から、中3への卒業証書授与は、高校卒業式とは別途行ってきました。ただ、実際にやってみたところ、むしろ別にやったほうが、中3にとってはよいのではないかということになりました。合同だどうしても高3生中心の式になってしまいますが、別個に行くと、ちょうど武蔵生活の折り返しを迎える中3生にとっても、一つのけじめの通過儀礼として意味あるものになると考えました。このため、本日は大講堂を会場に、さらに保護者の皆さまもお招きして、自然体の形で中学卒業式を実施することになりました。保護者のご出席についても、高校生と一緒にどうしても会場収容力の関係から、高校卒業の親御さん優先になりますが、中学単独の卒業式ですと、多くの保護者の皆様のご出席を賜れるようになりました。ただ、今日は終業の日でもありますので、各学年各クラスの先生方も仕事があり全員の出席はかないません。出来る範囲での、でも心を込めたお祝いになることをご容赦ください。

さて、今日は堅苦しい式辞ということではなく、私からはざっくばらんにお話をしたいと思います。具体的には、中学校三年間という卒業の節目に、これから新たな三年間を臨むにあたって、生徒諸君に二つのことを問いたいと思います。

一つ目は、この武蔵中学校での三年間はどうかだったか。そのことを振り返ってほしいということです。

私は武蔵の過ごし方として、三つのタイプがあると思います。皆さんはどのタイプにあてはまるか。考えてみて下さい。

まず一つ目は充実型。中学校三年間、勉強に部活に校外活動に、自由にのびのびと武蔵生活を送った諸君です。自らの好奇心に火をつけ、自分が好きなこと、楽しいことに熱中し、それを深めた者もいるかもしれません。

論語にこういう言葉があります。「子曰く、之を知る者は之を好むものに如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」。つまり、物事をやるには或いは学ぶには、まずは知りたい、次に好きだ、さらに楽しいと思えることが素晴らしいんだよということです。

知りたい、好きだ、楽しいの言葉をつなげて、よく「知好楽」と言いますが、自分の知りたい、好き、楽しいを見出し、さらに、それが一生の職業に結び付けばこんなに素晴らしいことはありません。ぜひ、充実した武蔵生活を送ることができた人は、さらに自らの「知好楽」を深掘りし、それぞれの進路希望の実現に向けて頑張ってもらいたいと思います。

次に二つ目。悩み苦しみ型。中学校三年間、いやなことが多くて悩んだり苦しんだりした諸君。勉強ができなかった。人間関係で苦しかった。自分に自信が持てなかった。親子関係で悩んだ。そういう諸君に私は言いたい。大いに悩め。悩め。悩め。その悩んだことが、必ず未来につながる。昔、こんなコマーシャルがはやりました。ソ、ソ、ソクラテスカプラトンか、みんな悩んで大きくなった。そのとおり、みんな悩んで大きくなった。

私もはるか50年前、15歳の武蔵時代に何を悩んでいたのか。思い出してみます。まず、自分の容貌に悩んでいました。かっこ悪いなと思っていました。鼻が大きいと思っていました。自分で物差しをあてて毎日鼻の大きさを測っていたりしました。鏡を見ても鼻に目が行くんですね。ばかだったですねえ。自分の性格にも悩んでいました。どちらかというと人の前にしゃしゃり出てしゃべることができない。面白いこともいえない。自分はどう思われているのかな。ダメだなとコンプレックスを持ちました。人の反応や言葉が気になりました。シャイな性格でした。

勉強も、試験一週間前は本当に苦しかった。今思い出しても、武蔵時代の試験勉強はいやだった。でも、ここでしっかりやらないと、あとでつげが回ってくると思って計画を立ててやっていました。一度だけ手を抜いたら、悲惨な成績でした。そこでやっぱり頑張ろうと反省したことをよく覚えています。自分の弱さを知り、そこに向き合うことから、すべてが始まると私は思います。

悩み苦しんだ二つ目のタイプの諸君に言いたいことは、とにかく悩め。そして悩んだあとに、自分なりに反省する。反省すれば、それは次につながります。過去を振り返って後悔することはない。でも反省することが必要。成果はすぐに出ないかもしれない。しかし、やり続ければやがて芽が出てきます。芽が出ないときは根を生やせ。悩んでいるときは根っこを生やしている時期だと思うのです。深く深く根っこを張ったときに、自ずと芽が出てきます。中学高校の6年間は、そうした試行錯誤の時間に他なりません。大いに悩め、悩んだことがその分人生の肥やしになる。それを言いたいと思います。

そして第三のタイプ。だらだら型。ボーっとしていたタイプの生徒です。中学三年間、

なんとなく過ごしてきた。ゲームやったり動画みたりして時間をつぶしていた。でも、何かをやったという達成感もない。また苦しんだり悩んだりしたということもない。

ぼーとしていた諸君には、テレビ番組のキャッチコピーではないけれど、「ボーっとしているんじゃないよ」といいたいと思います。とにかく何かをやる。何かにチャレンジしてみる。自分の安全地帯、コンフォートゾーンといいます。そこに留まっていな。そこを飛び出すことから、人の成長が始まると思います。

何かにチャレンジすると失敗するかもしれません。でも失敗を恐れる必要は全くありません。失敗と思っても、そこから学べば失敗ではありません。つまり人生には失敗はないのです。しくじったなと思っても次に生かせば成功になります。

そして何かをやる、何かにチャレンジすることによって、さっきの自分の「知好楽」がわかっていく。ああこれは自分に向いているな。逆に向いてないなど。向いてなければすぐにやめればよい。何かをやらないと何も始まらない。だから、だらだらとボーっとしている時間があつたら、何かをやってみるとよい。人生はあつという間です。

確かにたまにはボーっとする時間があつてもよい。でも人生ずーっとボーっとしていたら、失われた時間の累積は、何かの目標に向かって常にチャレンジし続けている人の時間の累積と比べると大きなものになります。

古代ギリシャでは「暇」があることが最大の価値でした。そして、その「暇」をどう使うかが人生の大問題でした。「暇」はスコレーと呼ばれましたが、これはスクールつまり「学校」の語源になりました。暇を学問に使うことが、人間の価値を高めることにつながるという考え方です。時間は生きています。Don't waste your precious time. あなたに与えられた宝物の時間を無駄にするな。与えられた時間を生きたものにするか、死んだものにしてしまうかは気持ち一つ。これは、通勤電車でゲームに興じている大人にも言えますが、与えられたスコレーを、生きた時間にしていくことが大事だと私は思います。

皆さんは、この三つのタイプ、「充実型」「悩み苦しみ型」「だらだら型」。どのタイプでしたか？実際は、この三つのタイプが、一人の人間の中にも交じっているのだと思います。

皆さん、自分の三年間を振り返ってどうでしたか。「充実型」「悩み苦しみ型」「だらだら型」。どれでもいいじゃないかと私は思っています。全然オッケー。問題はそこからどうするのか。前を向いてどう踏み出すかだと思うのです。

昨年のちょうど今頃、皆さんの中で何人かの希望者は聞いたかもしれませんが、特別授業でセガの内海社長が話に来てくれました。内海社長はバレー部で私の4つ後輩でした。バレー部は当時も中学生高校生仲良く一緒に練習をしていたので、良く知っています。内海君はあの頃のままでのいい奴でした。

彼はこう言いました。「多動して自分の居場所を見つけよう」と。

それは彼の経験から出てきた言葉です。武蔵では6点台で成績は下のほう。彼は昔から落ち着きがない。集中力がない。当時はそういう言葉はなかったけれど、多動だったんですね。そして当時はそのことにコンプレックスを持っていた。

でも、浪人してある予備校に入って、四人座れる長椅子の真ん中に座ったとき、はっきりわかった。「自分はやっぱりじっとしてられない。これはダメだ。この予備校は自分の居場所じゃない」と。それでその年は遊んじゃって、さらにもう一年浪人して、比較的自由な予備校に入って、そこで頑張って二浪で一橋に入った。

その後就職のときも、当時はバブルの絶頂で、就職先も引く手あまた。一般的には銀行・金融が花形でエリートコース。でもそんなかちつとした仕事は自分には絶対無理と、ソニーに入った。そしたらソニーもプレイステーションとか、エンタメやゲーム開発に舵を切って、それから実にいろんなことがあって、今は気が付いたら社長。今も年間15か国に行くくらい、じっとしてられない。「今は多動が生きる居場所にいるよ」という話でした。そうなんだよね。先ほど私は格好よくチャレンジと言ったけれど、もっと平たく言うと多動。色々動くと、何か起きて、次の出会いがうまれてくるんだよね。

内海さん講演終了後、私へのメールで彼はこんなことを言ってくれました。「自分の武蔵での経験を踏まえ、勉強のできない生徒や勉強の意味が上手くわからない生徒に刺激を与えられたら良いのかなという気持ちで話をさせてもらいました」いい奴だよね。

さて、問題は、これからの15歳から18歳までの3年間、どうすごすか。今、ちょうど中学校卒業という節目にいる諸君には、これまでの中学校生活を、今一度立ち止まって振り返ってもらい、大いに悩み、大いにチャレンジしながら、それぞれの「知好楽」を追求して行ってほしいと思います。人生は自分の思ったように必ずなっていく。要は校長面談のときに皆さんにお話したように、「自分で自分の人生をどうしたいか」を本気になって考えることだと思います。

そしてもう一つ、中三生諸君に聞きたいことがあります。それは、中1の道徳の授業の

ときにも皆さんにお話ししたかと思いますが、諸君は自分の「人権感覚」を磨いているか、また「公共心」を持って生活をしているかということです。

「人権感覚」とは何か。それは人を大切にするという感覚、大切にできているという感覚です。お互い、価値観も違う。色々と意見が対立することもある。喧嘩をすることもあるだろう。でも、どこか根本のところ、人を大切にしているかということです。その感覚を磨いているかということです。

具体的に言えば、人の嫌がることをするな、言うな。人をあざ笑うな。人の痛みを感じる人間になれということです。

というのも、今社会を見回してみると、社会的地位の高い人であっても、あるいは学歴の高い人であっても、「こんなこと言っちゃうの、あんなことやっちゃうの」という例が、あまりにも多すぎるからです。どうして、そんなことを言うてしまうのか、やっってしまうのか、その原因はよくわからないけれど、私は、そういう人は、多感な10代の時期に、人の痛みを感じたことがなかったのではないか、人の本当の優しさに触れたことがなかったのではないかと思います。

だからこそ、15歳の君たちには、何をやったらまずいのか、何を言ったらまずいのか、これを言っちゃったらおしまいよ、これをやったらおしまいよという感性をよく磨いてほしい。

皆さんは、黄金律、ゴールデンルールという言葉聞いたことがあるでしょうか。実は、聖書でも仏教でも儒教でもイスラム教でも、大切にされている教えは共通しているということです。それは何かというと、「人にしてもらいたいと思うことをしなさい」あるいは「人の嫌がることはするな」ということです。これが黄金律、ゴールデンルールです。

現実の社会では、実は難しい面もあります。わざとではないけれど、どうしても人を傷つけてしまうこともあるでしょう。でも人を傷つけることの痛みを知っていることは、人に傷つけられた痛みを知っていることとともに、大事なことだと思います。そして、人が困っているときにこそ、手を差し伸べられる人になってほしいと心から思います。

もう一つ、「公共心」とは何か。「公共の福祉」という言葉がありますが、公共はみんなという意味、福祉は幸せという意味、つまり「みんなの幸せ」を考えているかということです。自分のことを考えているのは For me、これはとても大事なことです。同時に、人

のことみんなのことを考えているのは For you。つまり公共心は For you の精神です。

日々の掃除や挨拶もそうですが、自分の利益だけを追うのではなく、人のため、みんなのためという行動が、さりげなくできるようになってほしい。

「みんなの幸せ」ってなんだろう。難しい問題です。でもこの三年間に起こっている、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとガザの戦争の問題、そして最近のイスラエルやアメリカによるイラン攻撃などを見ると、世界中でこのことが問われていると私は思うのです。「みんな」の意味するものが、国によって人によって、それぞれ違う。でもできるだけ、「みんな」は広いものになっていかなければならないんだらうと私は思います。

以上、武蔵中学校卒業という節目に際して、二つのことを話しました。一つは今この折り返しの時点で前半三年間を振り返ってほしいという、そして次に踏み出してほしいということ、もう一つは「人権感覚」と「公共心」を磨けという話です。

いよいよ四月には改めて高校入学式。中高時代の後半戦が始まります。
3年後、一回りも二回りも大きく成長していく皆さんに私は大いに期待しています。

以上で私の式辞とします。卒業おめでとう。